

謹賀新年

日野原重明先生の復活

私が生涯の師と定めた日野原重明先生が
ご昇天なされてから一年と半年が過ぎよう
としています。

昨年、私たちは大分記念病院創立三十八
周年の記念事業として、日本医療近代化の父
とも言える日野原重明先生のご遺徳を讃え、
その平和へのミッションを末永く後世に伝え



るべく、先生の大方でのご講演を基に映像に
よる講演録を作成することを考えました。

日頃、日野原先生は幼少時「大分メソジエ
スト教会」に赴任された父上とご一緒に大分
で過ごされ、私の最初の思い出は大分です
と仰っていました。

そのことがあって、大分は「私の第二の故
郷」と言って大分を殊の他可愛がって頂きま
した。

日野原先生の大きな業績の中の一つに「新
老人運動」があります。高齢になっても、その
方の生涯に亘って培ってこられた知識、経験
を活かして社会的に広く活動しているの方
々を尊敬されるべき高齢者「新老人」と名付け
て「新老人の会」を全国的に展開されました。
新老人運動は全国に敷衍され、その会員であ
る私たちは全国都道府県で「これから迎える
超高齢社会に如何に対処すべきか。どのよう
に作り上げて行くべきか」の指針を明確にす
べく活動を繰り広げてきました。

偉大な指導者のご昇天なされた後、その意
思を継いで豊かな超高齢社会を作り上げる
ため、私たちは全国各支部の方々と一緒に日
野原重明先生のミッションを広げてゆくため



の指針になるような映像記録を作りたいも
のと考えました。

幸い先生の大方での4回の素晴らしい講
演は、大分の放送関連のプロのカメラマンク
ルーによって完全な記録として残されていま
した。

その講演記録をもとにして編集。先生の今
後の医療のあり方への想い、そして世界の平
和へのミッションを再現することが出来まし
た。

上映してみると^{あたら}かも先生が私たちの直ぐ
目の前でお話しておられるのを聞いているよ
うな臨場感溢れる映像になりました。

私は一昨年、先生がご昇天なされた時は迷
える羊でありました。しかしこの映像を見る
ことよって、日野原重明先生は今も私の傍
におられて、話し掛ければ直ぐにも返事して
頂けるような気がしています。

將に日野原重明先生の復活です。
これからの人生、迷うことなく世界の平和
を目指して突き進んで行くことが出来そう
に思っています。



日本人の最近のがん統計結果とがんの早期発見への対策



国立がん研究センターの2017

年における日本人のがん統計によると、同年にがんで死亡した人は約37万3千人(男性が約6割)でした。

死亡数の最も多いのは男性では肺がん、次いで胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんの順で、女性では大腸がんが最も多く、次いで肺がん、膵臓がん、胃がん、乳がんの順となっています。最近がんの免疫療法など治療の進歩には目覚ましいものがありますが、現状では、がんの治癒のため最も大切なのは依然として腫瘍のサイズ、悪性度、およびリンパ節や組織への転移の有無であり、外科的手術によりどれだけ完璧に腫瘍を切除し得るかが予後を左右します。

食道がん・胃がん・大腸がんについては、ファイバースコープの著しい進歩により粘膜の狭帯域光法による観察と病変の拡大機能により早期がんの発見率が高まっています。胃がんは進行が速く、前回の胃カメラから8ヶ月後に早期がんの診断となった例もありますので、毎年

胃内視鏡検査を受けるべきでしょう。大腸がんの死亡数は女性で一番多いようですが、男女とも2〜3年に1回程度の大腸内視鏡検査が望ましいと思います。特に親や兄弟に大腸がんの家族歴がある人は毎年検査を受けた方がよいとされています。

また、肺がんの死亡数は男性では1位、女性では2位と男女ともに肺がんが上位をしめています。

昨今CT画像検査の驚異的進歩により、従来の「胸部レントゲンでは捉えられなかった陰影」を写し出すことが可能となりました。すなわち、胸部レントゲンは異常所見がなくても、肺がんが無いと断定することが出来なくなりました。最近、胸部CTで「数ミリ大のすりガラス陰影・結節」を発見する機会が増えており、それらをフォローアップしているところ、2〜3年から数年で腺がんに移行する場合があります。従って糖尿病患者さんや肺がんなどがんの家族歴のある人や、タバコを吸

う人、あるいは原因不明の咳が長く続く場合は、胸部レントゲンのみでなく、胸部CT検査を受けるのが望ましいと思われます。

肝臓がんについては、毎年腹部エコーを受けることにより腫瘍の発見率が高まります。

膵臓がんについても腹部エコーを毎年受けることをお勧めしますが、膵臓は胃の裏側にあるため超音波診断の限界があり、特に尾部が分かりにくい欠点があります。例えば、頭部近くに腫瘍がある場合は主膵管が拡張するので、造影CTをすぐ撮るのですが、腫瘍が膵尾部にある場合は主膵管が拡張しないため造影CTが行われず膵臓がんを発見出来ない場合があります。糖尿病は膵臓がんを合併しやすいので、糖尿病患者さんで膵嚢胞があったり、がんの家族歴のある方は、エコー検査のみでなく、造影CTによる経過観察が必要と思われます。

男性の前立腺は男性ホルモン作用により年齢とともに肥大し、尿の切

れが悪くなり尿意切迫や頻尿、尿も

れなどを来たすようになります。前

立腺肥大症でPSAという腫瘍マ

ーカーが上昇する場合があります

が、これが基準値上限を超えた場合

には、前立腺がんの可能性もありま

すので、泌尿器科で精査を受けても

らいます。前立腺がんの診断はなか

なか難しく、すぐつく場合もあれば、

経過観察により診断まで数年かか

るケースもあります。

最後に乳癌については、自分で乳

房のしこりをチェックするだけでな

く、1〜2年に1回くらい専門の施設

で乳癌検診をつけることをお勧め

めします。

当院では血液検査、超音波検査、

気管支鏡検査、消化管内視鏡検査お

よびレントゲンやCTによる画像検

査などに力を入れ造形腫瘍とが

んの早期発見に努めています。

(豊田)

大分記念病院 9月定例研修会 防災

「防火講話を終えて」

講師 大分市中央消防署南大分分署
庶務予防担当班GL
渡辺 隆 先生



昨年9月20日(木)の定例研修会は大分市中央消防署南大分分署庶務予防担当班GLの渡辺隆先生による「施設火災の際の注意点・他施設の事例を含む」と題した講演でした。以下は渡辺先生による感想です。



先日の防火講話につきましては、多くの職員が熱心に耳を傾け、質問も多く防火意識の高さを実感することが出来、貴院のしっかりとした管理体制に感服いたしました。また、患者さんに対する職員の数も他の病院に比べて多いという話を聞きまして、普段はもとより、災害時の対応にも万全を期すことが出来ると確信いたしました。

火災の発生時は、小さな炎から始まります。そのため火災を早く発見し、初期消火を行うことが最も重要となりま

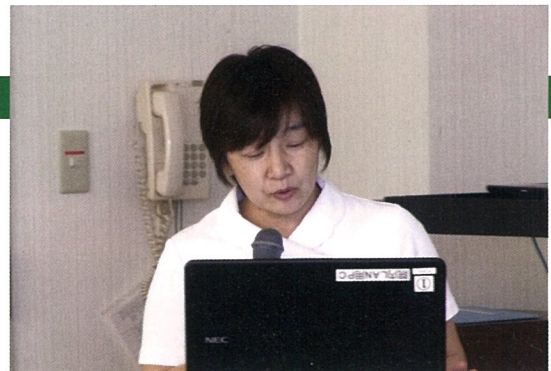
す。また、万が一火災が拡大し、避難行動の際は、入院患者さんも多く、複雑化した貴院の施設を考えますと、防火戸の管理や訓練の重要性が高い状況です。職員の皆様におかれましては、日頃の消防訓練にマンネリ化せず、防火意識の高さを維持していただき、安心安全な病院を目指していただきたいと思います。

最後に大分記念病院さんの、ますますのご発展と職員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、感想といたします。

大分記念病院 10月定例研修会 医療安全

「転倒転落を回避する取り組み」

昨年10月18日(木)の定例研修会は、医療安全対策委員会の主催で「転倒転落を回避する取り組み」をテーマに開催されました。



委員会メンバーである2B病棟の河野副師長が講師となり、転倒転落を回避するために当院で取り組んでいる対策について以下のような説明がありました。

高齢化社会となった我が国では、入院患者高齢者の増多から病院での転倒事例が数多く報告されています。高齢者が転倒を起こして、骨折や頭部外傷をきたすと、その後の生命予後、身体能力に大きく影響します。

当院では、チームでアセスメントシートを活用し、リスク評価による危険度に応じた対策を立案したり、転倒・転落環境調整カードを活用し、患者さんの身体状況の情報を可視化し共有することに努めています。また、転倒した場

合でも受傷回避または受傷の程度を軽くするためのマットの設置や患者さんの動線を考慮した療養環境の設定等にも取り組んでいます。

今回の研修を通して、転倒には様々な要因が絡んでいることから、多職種によるチームでの原因分析、根本的な解決に沿った予防対策が重要であることを参加した職員は再認識したと思います。多職種の効果的な連携や共同に基づいた安全管理体制の構築を基本とし、各職種の専門的な知識、技術、経験を融合させ、転倒転落ゼロの病院を目指していきたいと思っています。

大分記念病院 11月定例研修会 病院感染

ICT(インフェクション・コントロール・チーム)の 役割～ラウンドは重要です～

講師 大分県立病院感染管理認定看護師
大津 佐知江 先生



昨年11月15日(木)に開催された定例研修会は、大分県立病院感染管理認定看護師の大津 佐知江先生による「ICT (インフェクション・コントロール・チーム) の役割～ラウンドは重要です～」と題した講演でした。以下は大津先生執筆の抄録です。

診療報酬の感染防止対策加算の加算1-2連携において、大分県立病院と大分記念病院が連携し数年が経過しております。年4回、貴院のICTメンバーには当院で開催される感染防止合同カンファレンスに参加していただいております。このカンファレンスは、毎回異なるテーマ、例えば「各施設におけるインフルエンザ・感染性胃腸炎対策」「針刺し切創・血液体液汚染発生時の対応」等のテーマに関して、参加される皆様と情報を共有し課題等をディスカッションしております。最近、新規参入施設への「環境ラウンド」のために、はるばる津久見や佐伯まで足を伸ばして頂きました。今回の講演は、この合同カンファレンスの際にICTのメンバーよりご依頼を受けました。さて、講演をお受けするにあたりどのようなテーマをご用意したら良いか悩みましたが、日頃から業務との兼任で頑張っているICTの皆さんの活動についてご紹介することにしました。

感染防止対策は全ての職員が関わる課題であり、全職員が感染防止対策に参加することが求められます。感染

防止対策は、99人が実施できていても、たった1人ができなければ意味がありません。目指すは100%なのです。ですからICTのメンバーは院内の様々な部門から選出され構成されています。そのICTの役割は、病院感染サーベイランス、アウトブレイクの調査、マニュアルの作成、教育、環境整備など幅広く、特に環境整備は感染予防管理のためにとても重要です。今回の講演で環境表面に付着している微生物には、長期間生存可能なもの、消毒薬や熱に抵抗性を示すものがあり、前回入院患者が保有していた病原体が次の入院患者に保有されるリスク等を紹介しました。通常、環境表面から直接感染することはなく、環境表面に接触した手指を介して交差感染します。薬剤耐性菌等による感染症のアウトブレイクを防ぐためには、抗菌薬の適正使用、手指衛生の遵守、環境の清浄化のトリプル対策が必要です。ICTが実施している環境ラウンドは、院内感染防止対策の実務状況の把握と指導を行うことを目的とした重要な活動なのです。皆さん、一致団結してICTとともに感染防止活動に努めましょう!!



リレー・フォー・ライフ大分2018



リレー・フォー・ライフとは、公園やグラウンドを会場にして交代で24時間歩き続けることで、がん征圧・がん患者支援を目的としたチャリティーボランティア活動のことで

す。今回で11回目となる「リレー・フォー・ライフ大分2018」が昨年9月8日(土)9日(日)に大分スポーツ公園大芝生広場にて開催されました。

両日も、生憎の雨天でしたが、53チーム延べ約5,700名の方々が参加されました。

当院も初回からチーム「PEACE OF HEART」として参加しています。チームテント企画として今年もバナナの販売を行い、午後には完売してしまいました。

イベント企画では、学生の方へのがん啓発セミナーやサバイバートーク等の企画が行われていました。

残念なことに、雨が降り続いたため、ルミナリエの点灯は行われませんでした。夜には会場内のステージに椅子とテーブルを用意し、会場に来られなかった愛する人や、がんと闘いの中で亡くなった人を偲び祈る「エンptyテーブル」が行われ、雨の中多くの人々が参加して思いを共有することが出来ました。

今回は雨天のため閉会式も繰り上げとなりましたが、このような状況の中、皆でタスキを繋いでいくことでより一層絆を深めることができましたと思います。



創立38周年記念式典



大分記念病院創立38周年の記念式典が、昨年12月8日(土)ホテル日航大分オアシスタワーで行われました。まず始めに末友理事長から挨拶があり、2018年度の事業報告についてスライドを交えて説明がありました。引き続き、今年度の永年勤続者34名の表彰が行われました。

永年勤続表彰者は以下の通りです。(敬称略)

■30年勤続(2名)

中島 三枝(臨床検査科)
森永 富美(中央材料室)

■25年勤続(1名)

岩崎 信子(臨床検査科)

■20年勤続(8名)

宮川 ミカ(看護部) 田邊 かおり(看護部) 西田 匡世(看護部)
木下 恵(看護部) 金田 美紀(看護部) 古谷 悟千(リハビリテーション科)
秦 由紀乃(竹田クリニック看護科) 山口 清美(竹田クリニック栄養科)

■15年勤続(5名)

遠藤 由香里(看護部) 永沼 舞(放射線科) 前田 哲志(リハビリテーション科) 安東 浩子(医療事務課)
河野 美鈴(竹田クリニック看護科)

■10年勤続(8名)

住江 昭啓(診療部) 小原 えみ(看護部) 安井 早苗(看護部) 豊田 瞳(臨床工学科) 尾辻 健太(医療福祉相談室)
高橋 奈美江(栄養科) 後藤 尚美(竹田クリニック看護科) 金森 博美(森のコーラス 介護職員)

■5年勤続(10名)

三代 ゆみ(看護部) 赤峯 恵里(はやの里 訪問看護)
馬見塚 麻美(看護部) 川野 なつみ(看護部) 小野 朝美(看護部)
高田 宗士(臨床工学科) 舛巴 真人(臨床工学科)
岩田 成喜(リハビリテーション科) 貞兼 裕美(栄養科)
早川 順子(事務課)

受賞者を代表して、看護部の宮川ミカさんが謝辞を述べました。





記念式典に続いて2018年度忘年会の開催です。

末友先生の開会挨拶に続き、豊田先生の乾杯の音頭とともに、楽しい宴の時間が始まりました。次々とテーブルに並ぶ豪華な料理を楽しみながら、2018年度を振り返り歓談していると、毎年お楽しみの新入職員による余興がスタートしました。

トップバッターは、リハビリテーション科、MSW、はやの里男子合同チームによる星野源「恋」のサイリウムダンスです。暗闇の中に浮かび上がるサイリウムが怪しい弧を描き、オタ芸の世界観を表現しました。続いて看護部2A病棟による「年下の男の子」と「ミニオンダンス」です。キャンディーズの懐かしのナンバーをセーラー服姿の3人娘がキュートに歌い踊ると、突如ミニオンに扮した5人組がステージに現れ、ミニオンダンスを踊りながらキャンディーを配りました。そして、次なる登場は竹田クリニックによる「ヤングマン」です。アフロヘアでノリノリのダンスと見事な「YMCA」を披露してくれました。ステージのボルテージがどんどん上がってきたところで、お次は看護部、連携部、医事課、薬剤科合同チームによる「おどるポンポコリン」です。まる子、たまち

やん、花輪くんなどおなじみのキャラクターたちが登場し、賑やかなステージパフォーマンスを繰り広げながら会場を盛り上げました。続く、はやの里による再びの「ヤングマン」は英語バージョンの歌詞で息ぴったりダンスを披露しました。トリを飾ったのは栄養科による昨年の大ヒットナンバー、DA PUMPの「USA」です。右に左に踊り狂い、先生方も飛び入り参加して、会場の盛り上がりは最高潮に達し、盛大な拍手と共に余興は終了しました。

そして毎年恒例の抽選会が終わると、最後は高田先生の閉会挨拶、向井先生の万歳三唱で幕を閉じました。

職員同士のコミュニケーションも大いに深まり、2019年度に向けチームの結束力がますます強まった大盛況の忘年会でした。



Merry Christmas



大分へモフィリア友の会クリスマス会



2018年12月9日(日)、大分へモフィリア友の会クリスマス会が、当院多目的小ホールで開催されました。友の会会員6名と当院スタッフ10名が参加し、楽しい時間を過ごしました。

友の会会長の開会の挨拶の後、今年は従来の血液凝固因子の機能を代替する新しいタイプの薬が登場したということもあり、最近の血友病治療について委員会メンバーの薬剤師が詳しい解説と説明を行いました。

WEBセミナーや講演会資料の情報に会員全員が熱心に耳を傾け、質問が出るなど関心の高さが窺えました。今後、血友病治療の選択肢がさらに広がればという期待と

もに、血友病患者さんの治療選択のサポートができる薬剤師になれるよう努力しなければという思いが強くなりました。

また、高田先生が医療費について触れられた際には、友の会のお母さんから「医療費のお知らせを子どもに見せている」というお話がありました。「血友病の薬は高価なものばかりですが、それなしに過ごすことはできないため、医療費について把握し、その自覚を持つことが重要だ」というお話が印象的でした。

その後は近況報告など和やかに談笑し、最後に恒例の記念撮影を行って閉会となりました。(薬剤科 田 泓)



作りま専科

餅入り

あんかけ茶わん蒸し



<茶碗蒸しの材料> 4人分

- 切り餅 …………… 6個
卵 …………… 2個
A { だし …………… 300cc
塩 …………… 2g
小葱 …………… 少々

<とろみあんの材料>

- B { だし …………… 150cc
醤油 …………… 大さじ1/2
みりん …………… 小さじ1
C { 片栗粉 …………… 小さじ2
水 …………… 小さじ2

作り方

- ① 切り餅は角切りにする。小葱は小口切りにする。
- ② Aを混ぜて塩を溶かす。
- ③ 卵を溶きほぐし、②を加えて溶きのばし、濾し器で濾す。
- ④ 耐熱容器に餅と③の卵液を入れる。
- ⑤ 鍋に水を張り強火にかける。沸騰したら④の容器を鍋に入れて、鍋のふちに菜箸を1本挟んで蓋をし、弱めの中火にして3分程蒸し、さらに弱火にして12分程蒸す。
- ⑥ とろみあんの材料を作る。Bを鍋に入れて煮たてる。火を止めてCの水溶き片栗粉を加えて、再び火にかけてとろみをつける。
- ⑦ 蒸しが完了した茶碗蒸しに⑥のとろみあんをかけて、上に小葱を散らす。

新入職員紹介

昨年10～12月に入社した
新入職員5名を紹介いたします。
どうぞよろしくお願いいたします。



繁田 佳苗
(看護部)

短時間の勤務ですが、微力ながら精一杯頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。



和田 瞳
(看護部)

療養生活を送られている患者さんが、少しでも笑顔になり安心して過ごせる様に寄り添っていただけたらと思います。



曾根田 ルミ
(看護部)

人としての基本を大切に毎日笑顔で頑張ります。



田部 葉子
(竹田クリニック 看護科)

患者さんに安心して透析を受けてもらえるように、しっかりと知識と技術を身につけ、笑顔でがんばります。



板井 こそえ
(はやの里 訪問介護)

一日でも早く仕事に慣れるよう頑張ります。よろしくお祈りいたします。

編集後記

あけましておめでとうございます。

さて、2019年の新春を飾る巻頭言は、昨年作成した日野原重明先生の映像による講演記録に対する並々ならぬ熱い思いと、この映像記録をよすがとして、世界平和を目指して突き進んで行くという、未来に向けての強い決意が綴られていて、生命力と明るい希望が伝わってくる文章です。

新しい年を迎えました。巻頭言のように、人それぞれに自分の胸が熱くなるような、生きる「素」を持つことが、とても大切な気がします。それは、恋でも愛でも友情でも、はたまた趣味の世界でも、芸術でも、好きな芸能人でも、尊敬する方でも、お子さんの成長でも、なんでもよくて、それぞれの生きる「素」が明日に向かう活力となる。目標に向かう。また暫く頑張ろうと思う。そうやって、未来に向かって明るい方へ、明るい方へと突き進むような一年を、皆さまが送られますことを心より願っております。

(図書室 河野)

がん患者さんやそのご家族、介護援助者の方々の交流会です。
一般の方もご自由にご参加ください。

リレー・フォー・ライフ大分サロンの ご案内

毎月第2日曜日 午前10:00～12:00

当院の1階多目的ホールで開催しています。会費は不要です。

主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分

医療法人 大分記念病院

基本理念

1. 私達は法人各施設・各部門が協力して、患者中心のチーム医療と利用者中心のチームケアを実践することにより患者及び利用者の満足度と幸福に貢献します。
2. 私達は常に診療レベルの向上を図ると共に地域住民の皆様へ安全で良質な医療とケアを提供します。
3. 私達は地域の医療、福祉機関との緊密な連携を保ちながら一般急性期医療および地域包括ケアを実践します。

基本方針

1. 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた全職員による全人的医療を患者の皆様へ提供します。
2. 患者及び利用者の皆様の立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
3. 患者及び利用者の皆様の満足度を高めるべく、心のこもった医療と介護サービスに努めます。

大分記念病院ホームページはこちらから

大分記念病院

検索

